

大規模稲作経営体における新規大規模タマネギ栽培の支援

対象者 甲賀市水口町 0 農産

【普及活動のねらい】

水稻大規模農家である0農産では、初夏に収穫可能で出荷作業も簡易なタマネギの契約栽培に以前から興味を持たれ、令和2年産から本格的に栽培を始められました。今年度は栽培初年である上に、1haと大面積であったことから、田植えや麦の刈り取りなどの作業との競合も考えられました。そこで、栽培に関する知識や技術の習得とともに田植えや麦刈りとの作業競合回避のための栽培や品種の検討の支援を行いました。

【普及活動の内容】

栽培に関する知識や技術の支援

令和2年産タマネギについては、栽培管理の節目に当たる場面で各作業内容の理解を促すため、現地で具体的に説明を行いました。特に、あらかじめ発生が予想されるべと病やアザミウマ類等主要な病害虫や雑草の対策については、体系的に防除する必要があることから、防除スケジュールを示し効果的に実施するよう指導しました。さらに、収穫後には令和2年産の生育や防除・収穫の作業について改善点を共有するために検討会を開催しました。



掘り起こされたタマネギ

作業競合回避のための栽培や品種の検討

収穫作業は従来、葉の倒伏を目安にしますが、令和2年産については、作業競合が起こらないよう、倒伏だけでなく、降雨を勘案しつつ、同時に麦の収穫作業の日程を踏まえ実施するよう促しました。令和3年産においては、収量のさらなる増加を目指し、作業競合の回避のため、令和2年に実施した調査研究で実績のあった、ネオアースを用い11月でなく10月中下旬に定植する早植え栽培に取り組むこととしました。しかし、本年度の作付けほ場の中でも排水性の良いほ場を選定したものの思いのほか排水が悪く、砕土作業が想定以上に遅れ、やむなく通常栽培に切り替える結果となりました。前作である水稻の段階からタマネギほ場を選定し、早期に準備することを課題として共有しました。



令和3年産タマネギの定植

【普及活動の成果】

栽培技術については現地で具体的に説明を行ったことで理解が深まり、特に、防除に関する技術については、計画的な防除を実施した結果、大きな病害虫や雑草の被害が発生しなかったことにより、防除スケジュールによる防除について自信を持たれました。令和2年産については、雑草防除、作業日程の調整により、麦との作業競合を回避し、適期に収穫できましたが、販売額や収量については目標に達しませんでした。令和3年産については、今後の生育の状況を踏まえ令和2年産で行った麦刈り作業との調整を図り、競合が生じないように引き続き支援を行います。